

## 通訳電話が英語を不要に？

日本人は英語を話すのが苦手である。グローバル化に伴う英語ブームのなか、日本人の英会話力はあまり向上してない。しかしそんな日本人を救うかもしれない素晴らしい技術が誕生した。

2012年11月にNTT docomoがまるで通訳を介したかのように外国人と会話のできる「はなして翻訳」という通訳電話サービスを開始した。通話内容が瞬時に自動英訳（韓国語・中国語も可）されて出音するものである。このシステムは言葉の壁を超えたコミュニケーションというコンセプトのもと2010年夏開発が始まったものである。以前は開発困難であった同システムだが、音声認識・翻訳など諸技術の進歩により実現可能となった。

モバイルビジネスのリサーチ機関MMD研究所の調査結果によると、今代表される5つの通訳アプリの中でも最も評価が高い。その理由としては音声認識能力の高さと、出力音声の聞き取りやすさ、翻訳の質の高さなどがある。このサービスは無料で利用できるのも、さらなる改善後に利用者が増加すれば、英語を必死に学ぶ必要がなくなるかもしれない。

ではグローバル化の中、本当に英語を学ばなくてもいいのだろうか。言葉は文化の結晶と指摘するのは英文学者の慶應義塾大学小菅隼人教授である。言葉はコミュニケーションツールであるが、言葉自体がその国の文化・思想・感性を表現している。そもそも言葉は芸術であり、魔力がある。だから学ぶ意義はあり、そのニュアンスは機械で表現できるほど浅くないと語っていただいた。

まだまだ通訳電話システムには改善の余地があり、誤差なく思いをすべて伝えられるよう改善されるには時間がかかるだろう。グローバル化する中、英語をはじめとする外国語を単なる道具・記号としてとらえるか、深いレベルでその言語を理解するか考えなおさなければいけない。通訳電話は英語学習を根本的に見つめなおすいい機会を与えてくれそうだ。